



## 開催にあたって

宮城・山形両県では、個性的で魅力あるふるさとづくりの一環として、総合的な観光振興を進めており、観光レクリエーション施設、文化財及び自然公園等の観光資源の有効活用を図るための各種キャンペーン活動やインターネットによる情報提供等の施策を展開しているところです。

近年、温泉地は、景気低迷や団体旅行から個人旅行へのシフト及び観光需要の個性化・多様化の影響を受け、観光客が減少している現状にあります。

この度、本協議会では国土交通省所管の「平成14年度地域連携支援ソフト事業」の採択を受けて、宮城・山形両県の隣接する温泉地を核とした新たな広域観光エリアの形成を図るためのスリーライン・ツイン・ホットスプリングス構想シンポジウムを行い、地域間交流の促進と温泉地域の活性化、観光産業の振興を進めてまいることとなりました。

今回のシンポジウムが、皆様方の熱意ある御参加により、県境を越えた新たな「地域観光エリア」の形成と「地域活性化」の契機となることを御期待申し上げます。

国土交通省  
宮城・山形観光推進協議会

## PROGRAM

13:00～13:05

挨拶

■主催者挨拶：国土交通省 国土計画局 特別調整課長 **高橋 洋一**

13:05～14:05

基調講演 (60分)

演題「連携新時代～地域が高めあう広域観光」

■(株)東北地域環境研究室 室長 **志賀 秀一 氏**

14:05～14:15

休憩 (10分)

14:15～15:15

パネルディスカッション (60分)

テーマ「県境・行政の壁を越えた“広域温泉郷”とは」

宮城・山形の県境をまたぐ3ルート沿いには、豊かな自然と歴史・文化や名湯が点在していますが、行政区分も異なることから温泉地間の交流や連携は進展しておらず、個々の温泉地がそれぞれ観光客誘致活動を展開しています。

パネルディスカッションでは、それぞれの温泉地を取り巻く環境や地域での活動などを通じて、宮城・山形両県の温泉地間の連携の可能性を模索し、新たな「東西軸観光ルート」の形成を見据えた話し合いを行います。

## 基調講演

しが しゅういち  
■(株)東北地域環境研究室 室長 **志賀 秀一 氏**



Profile 志賀 秀一

昭和50年、中央大学経済学部を卒業し、北海道東北開発公庫(現・日本政策投資銀行)入庫。平成元年、(株)山寺風雅の国 常務取締役就任、平成13年2月より現職。調査・研究として「地域振興方策策定調査」(青森県下北郡 東道村)、観光振興方策「地域づくりワークショップ」コーディネーター(新潟県 佐渡)、「上山まちづくり塾」塾長(山形県上山市)、古民家再生による交流施設の整備(宮城県岩出山町)、「農業振興における観光の役割を考える懇談会」座長(鳥取県江府町)、著書「魅力では足りない、磁力をつくる」-新時代へ向けての観光を考える- (東北開発研究センター刊)

東北地域の観光は、高速交通網整備に伴って高速化、広域化への対応を迫られている。  
新しい地域のサイズで、旅行者ニーズの多様化への取り組み、地域連携による独自の施策の展開などを通じて、  
新たな旅行スタイルを開拓していくことが急務である。

## パネルディスカッション

パネリスト

やまぐち のぶひろ

■天童市観光物産協会 専務 **山口 宣弘 氏**【山形県】

天童温泉、稲荷湯旅館・花月楼代表取締役。(財)山形県温泉協会副会長。天童温泉協同組合専務理事、現監査役を歴任し、平成13年度より天童市観光物産協会専務理事に就任。天童市が21世紀にむけた観光の将来あるべき姿に向けて策定した「天童市観光振興アクションプラン21」に基づき、天童市民や各種団体との連携を図りながら、観光、物産の事業に取り組んでいる。今回のシンポジウムでは、地域を重視した観光キャンペーン・イベントで、他の温泉地との連携を図っていくか、泉質で兄弟温泉といえる両地域での連泊を可能にできないか、考えたい。

パネリスト

やまぐち あつし

■天童温泉 滝の湯ホテル 常務取締役 **山口 敦史 氏**【山形県】

大学時代より世界各国を渡り歩き、ホテルや宿泊施設を見てまわり見聞を広めた。帰国後、その経験を生かして家業の旅館業に携わり、常務として奔走。天童市をはじめとする山形県内の若手経営者等と交流を図るなど地域活動にも励んでいる。

パネリスト

さとう ぜんや

■秋保温泉 (株)ホテル佐勘 専務取締役 **佐藤 善也 氏**【宮城県】

秋保・作並と天童は地理的距離よりも精神的距離感を埋めていくことが、今後の課題となるのではないかと。各々の文化がどのように融合できるかを深く考え、互いの違いを認識した上での相互交流に意味があると感じている。

パネリスト

ちば ひさみ

■(財)仙台観光コンベンション協会 事務局長 **千葉 久美 氏**【宮城県】

(財)仙台観光コンベンション協会観光物産部長を経て現在に至る。観光産業はその地域住民の意識を含めた総合的な地域力がベースとなる。受け身ではなく、前向きに行動することは、観光客のためというより、地域自らのためである。ひとりひとりの意識を強く持つことが大切と考えている。

コーディネーター

しが しゅういち

■(株)東北地域環境研究室 室長 **志賀 秀一 氏**

※基調講演者プロフィールをご参照下さい。